



赤谷の森から

最近のトピックスをまとめてみました

赤谷森林ふれあい推進センター

1. 「「三国山地／赤谷川・生物多様性復元計画」の推進のための協定書」を更新しました！

平成23年4月1日に締結した協定書が今年の3月31日で有効期間が切れることから、新たに令和3年4月1日から10年間の期間を更新しました。最初の協定書の締結（平成16年3月30日）から2回目の更新となりますが、今後も関東森林管理局、（公財）自然保護協会、赤谷プロジェクト地域協議会と3者連携を取りながら、赤谷プロジェクトの推進に取り組んで参ります。また、赤谷の森管理経営計画書（別冊）も新たに樹立され、これから5年間の計画として活用していきます。是非とも今後の活動に注目してください。

2. 炭焼窯を改修しました！

赤谷プロジェクトの活動拠点である‘いきもの村’には、プロジェクト当初に関係者が集まって作り上げた炭焼窯があります。不具合もありここ数年利用されておらず「せっかくあるのに活用しないのはもったいない」とのことから、このたび窯を改修しました。改修のポイントは、使えるところは再利用しつつ、大部分を取り壊して小さく造り直し、耐久性を考慮して耐火モルタルをたっぷりと使用しています。作業は令和2年6月下旬から順次実施し、今年3月初旬に完了しました。9月9日にみなかみ町を襲った局地的豪雨により改修中の窯には泥が入り込むなどの被害を受けたりもしましたが、このたび無事に完了することができてほっとしています。今後は、炭焼きの専門家を講師に招き、‘赤谷の日’などを通じて、多くの人に炭焼きの楽しさを味わってもらいたいと思います。



6月解体開始



11月モルタルを内壁成形



12月丸太を積み



3月粘土で天井を成形



3月モルタルで天井を成形



3月焼き固めの様子

3. YouTubeに広報用動画をアップしました！

赤谷センターでは、新型コロナウイルスの影響で、自然散策等のイベントを中止せざるを得ないことが多々ありました。イベントを楽しみにされていた方々はもちろん、なかなか外に出る機会のない人にも、自然散策を疑似体験してもらえたら嬉しいという思いから、このたび農林水産省の公式YouTubeチャンネル‘maffchannel’に「小出俣散策ルート 行ってみたぴょーん」

をアップしました。この動画は、赤谷の森の巨樹・巨木が立ち並ぶルート、局の女性職員2人がゲストとなり、ガイドさんと共に散策するというものです。散策の内容も単なるトレッキングにとどまらず、斜面登りや沢登りの要素も取り入れるなど、よりワクワク感を持って森林と溪流の両方の魅力を感じてもらえるよう工夫していますのでご視聴よろしくお祈いします。



ご視聴は
こちらから→



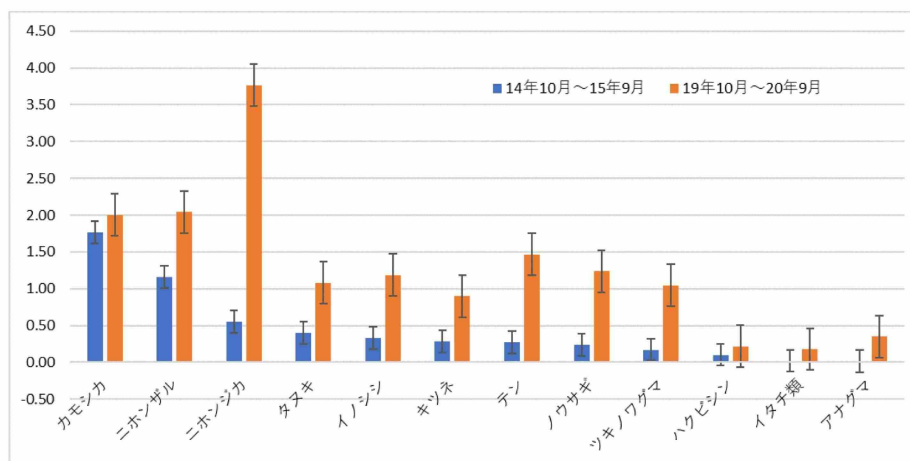
赤谷のブログも
こちらから →



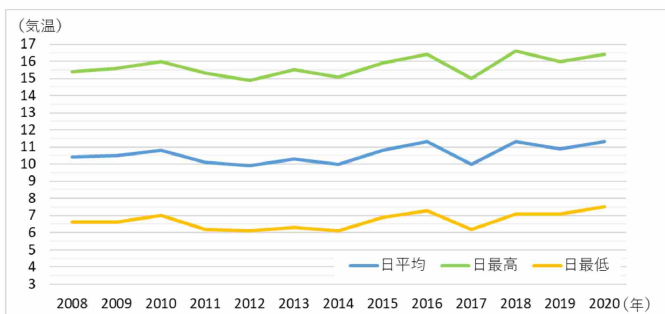
4. 令和2年度 関東森林管理局 森林・林業技術等交流発表会で優秀賞を受賞しました！

令和3年2月16～17日に行われた森林・林業技術等交流発表会において、赤谷センターからは、スライド発表「赤谷の森における自然林復元試験」と、ポスター発表「成熟した人工林の伐採によるイヌワシの狩り場の創出実験」、「ニホンジカの低密度管理に向けて（第2報）」の計3つを発表しました。このうち、スライド発表では優秀賞を受賞することができました（発表者：伊藤、共同発表者：（公財）日本自然保護協会 朱宮）。これも長きにわたる関係者の方々の努力のおかげです。ありがとうございました。

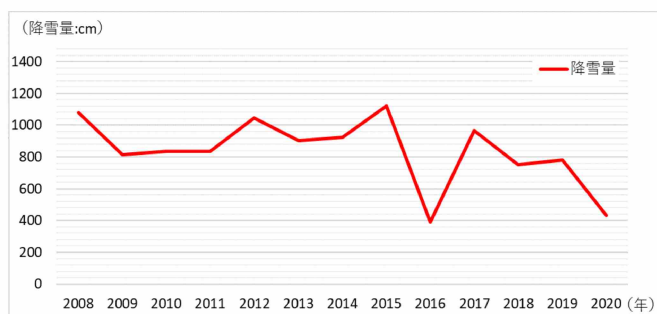
5. 最後にちょっとサイエンス（赤谷プロジェクトモニタリング調査からの紹介）！



2014年10月～2015年9月と2019年10月～2020年9月のカメラトラップ51地点の種別RAI平均値の比較



みなかみ町の平均気温等は上昇傾向



みなかみ町の降雪量は減少傾向

赤谷プロジェクトでは、2008年から赤谷の森に住む動物のモニタリング調査を51箇所に設置してあるセンサーカメラで行っています。普段はニホンジカばかり表に出ますが、その他の動物のデータも貴重なものと考えます。簡単に調査結果を言えば、多数の動物が増加傾向にあり、その理由はなぜか、地球の温暖化によるものではないか、厳しい冬が緩みそれまである程度淘汰されていた動物も生き残るようになり数が増えた、と仮説を立てるのも面白いものです。このデータは赤谷の森のみのものですが、この調査を全国規模で行えば日本の気候変動の推移が見えてくる。その一つの手法として考えると今後も非常に興味が沸く調査の一つと言えます。

